横浜市立 元石川小学校　　令和7年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「高め合おう　つながろう　未来をつくる元石川の子」
（笑顔をつないで未来へはばたけけやきっ子）
《知》 進んで問題に取り組み、解決し、学ぶ楽しさや喜びを感じる力を育てます。
《徳》 自分も人も大切にできるやさしさと勇気を育てます。
《体》 自他の命を大切にし、心身ともにたくましく生きる力を育てます。
《公》 家庭や学校、地域での自分の役割を理解し、他者と協働する心を育てます。
《開》 多様な人とのつながりを大切にし、社会の変化に対応できる力を育てます。

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
〈問題発見・解決能力〉 〈コミュニケーション能力〉	・問題を認識し、目標設定し、解決手段を見いだし実行する力。 ・考えの妥当性や信頼性、発展性を検討する力。 ・人と思いや考えを共有する力。 ・対話を通して合意形成する力。

中期取組目標

みんな（わたし・あなた・みんな）の輝く姿を求めて、子どもを大切にし主役として位置づけ、誰もが生き生きと成長する学校にします。
・進んで問題に取り組み、解決し、「できた」「わかった」と子どもが実感する授業を構築します。
・子どもの気持ちを考え、子どもに寄り添う指導を心がけます。
・保護者や地域とつながり、様々な学びの環境を教育に生かします。
・教師自身も成長し続ける職場を目指し、チームで子どもたちを育てます。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳、学級活動、朝会、人権週間を活用し 、他者と自分を大切にすることを理解し実践できるように意図的に授業や活動を行う。
担当：児童指導プロジェクト	②1年間を通して縦割り集会を行い異年齢同士のつながりを強化し他者を思いやる気持ちを育てる。

豊かな心に関わる本校の状況

本校は、大人の言うことをよく聞いて何事にも一生懸命取り組もうとする児童が多い。学級でも穏やかに、友達と助け合って過ごそうとしている。地域の協力体制もしっかりしており、読み聞かせやPTA・ボランティア活動など充実した活動で児童の成長を支えている。縦割り活動を通して、クラス以外の友だちや上級生、下級生とのつながりも少しずつできてきているが、まだ十分ではない。人の気持ちを考えて行動したり、きまりをしっかりと守ったりすることに対する意識が低い児童、反対に、まじめでこだわりが強く融通が利かなかったり、周りを気にしすぎたりして自分らしくいられない児童など、他者とのコミュニケーションや集団適応が難しい児童も少なからずいる。

今年度の目標

○自分も人も大切にできるやさしさと勇気をもつ子の育成
○思いやりや感謝の気持ちをもち、互いを尊重し合って生活できる子どもの育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

【項目　道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育　（必須項目）
○学校生活全体（各教科・特別活動・人権教育・特別支援教育等との関連）を通して、児童の実態を把握し、思いを受け止め、願いを実現できる場面を意図的・計画的に設けるなど、日々の道徳教育を充実させる。

【項目　体験活動の充実】
○異学年グループによる縦割り活動を充実させ、年間を通した縦割り集会、休み時間の遊び、ペア学年活動等、学級集団だけではない異学年どうしのつながりを深めていくようにする。

下半期

【項目　道徳教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育　（必須項目）
○道徳科の授業をさらに充実させ、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
○学校生活全体（各教科・特別活動・人権教育・特別支援教育等との関連）を通して、児童の実態を把握し、思いを受け止め、願いを実現できる場面を意図的・計画的に設けるなど、日々の道徳教育を充実させる。

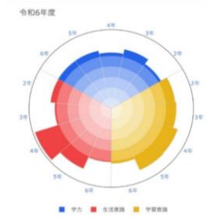
【項目　体験活動の充実】
○本物を見る・本物に触れる・実際にやってみるなどの体験活動を通して、満足感・充実感を味わい、興味関心を広げたり、自分の可能性を見出したりして、自己肯定感を高め、豊かな心を育成していく。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業力の向上	①「できた」「わかった」と子どもが実感する授業を構築する。。 ②「魅力ある授業」のあり方について、仲間と考え合う。 ③「授業のユニバーサルデザイン」を推進する。 ④「知識を身に付けはる」ための指導のほかに、「学び方を身に付ける」指導を行う。
担当：評価P・重点研	

学力向上に関わる本校の状況

令和6年度の横浜市学力・学習状況調査は、どの学年においても学力、生活意識、学習意識とも、横浜市の平均を大きく上回った。生活意識に関しては年々向上してきている。学校生活や校外での生活に節度をもって送っていたり、自分を向上しようとする意識が高くなったりしていることが見て取れる。。
生活意識の「言葉や文字などを使って、人と気持ちや意見をやり取りすることは好きですか」という設問では、市の平均を大きく上回っていた。自分の考えをしっかりもつことができる良さを生かしながら、更に子どもたちが自ら進んで考えを広め、生活を良くしていく態度の育成につながるよう、引き続き生活科、総合的な学習の校内研究を通して、本校が目指す資質・能力を育んでいきたい。



今年度の目標

かかわり合うなかで学び合い、高め合う子どもの育成
～協働的に問題解決することの楽しさを味わうことができる魅力ある授業づくりを目指して～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

＜学び方を身に付ける。＞
○低学年
　教育活動全般において、様々な経験がつめるようにする。その中での気づきや疑問を、相手に伝える場面を多く設定する。

○中学年
　人との関わりを意図的に取り入れ、相手の考えを認めたり取り入れたりしながら、自分の考えをもてるようにする。

○高学年
　人との関わりを通して、新たな考え方に気付き、考えを広げたり深めたりできるようにする。

○個別支援学級（年間を通じて）
　個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、し草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を活用する場面を多く設定する。

下半期

＜学び方を生かして、授業を創る。＞
○低学年
　学んだ知識や技能を使って、学習課題を自分たちで解決する楽しさを味わわせる。

○中学年
　人とかかわりをもち、一緒に活動したり思いを伝え合ったりしながら、自分の考えを広げられるようにする。

○高学年
　問題を解決するための手段や方法に気付き、周囲と協力しながら実践していくことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校保健委員会で1年間のテーマを決め、そのテーマに沿って各クラスで具体的な取組を決めて健康な体作りを行う。
担当：体育部・特活部・養護部	②縄跳びやボール運動を取り上げ、学校全体の目標記録を設定した縄跳び大会や運動集会を実施し、体力の向上に励む。

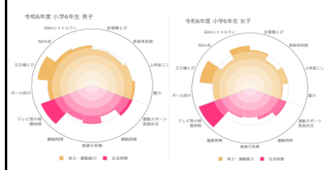
健やかな体に関わる本校の状況

体育・健康に関する実態

第6学年を例に見てみると、「睡眠時間」や「朝食の有無」「運動時間」など、全体的に、市の基準を下回っている。一方で「テレビ等の視聴時間」は、平均を上回っており、生活習慣の乱れが見られる。

体力の概要と要因の分析

第6学年を例に見てみると、「立ち幅跳び」の値は、市の平均値を大きく上回っているが、「ちょう座体前屈」では、平均値を下回っており、柔軟性の低さが見られる。



学校保健委員会

保健委員会が中心となり、健康課題からテーマを決め、解決するための取組を行っている。
今年度は、清掃活動について取り組む。学校をきれいにして、創立50周年をお祝いしたい、という子どもの思いがある。具体的な取組を代表委員会に提案をし、学校全体で取り組んでいきたい。

今年度の目標

運動する機会を増やし、運動することの楽しさに触れることができる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

・運動委員会主催のスポーツイベントを通して、運動することの楽しさを知る。
・運動会の練習を通して、集団や個人の運動することの良さに触れる。
・学校保健委員会の取り組みに対するクラスの目標を考えることを通して、学校全体の健康課題とクラスの現状に気づき、実践できる取組を提案できるようにする。

下半期

・運動会を通して、運動することの楽しさ・良さに触れる。
・運動委員会主催のスポーツイベントを通して、運動することの楽しさを知る。
・学校保健委員会の取り組みを通して、健康課題を解決しようという意識を個人がもち、実践していくことができるようにする。